

令和2年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

第2回学校関係者評価委員会

日時：令和3年1月14日（木）19：00～20：00

場所：八田小学校 パソコン室

<学校関係者評価委員>

井上孝雄	（学識経験者 元小学校長）	※学校関係者評価委員長
鈴木正一	（学識経験者 元中学校長）	
貝瀬修二	（令和2年度 八田小学校PTA会長）	
武藤長寿	（令和2年度 八田小学校PTA副会長）	
井上祐子	（令和2年度 八田小学校PTA副会長）	
中込貴	（令和2年度 八田中学校PTA会長）	
清水ゆかり	（令和2年度 八田中学校PTA副会長）	
横打恵太	（令和2年度 八田中学校PTA副会長）	
清水幸子	（令和2年度 八田中学校PTA副会長）	
神宮寺静徳	（八田小学校後援会 会長）	

「教職員自己評価」「児童・生徒アンケート」「保護者アンケート」とも前期同様肯定的評価の割合が高く、おおむね満足できる状況にあると言える。ただ、そのことに満足することなく、そこから見えてくる課題や改善点を探っていくことがより良い「八田小中学校」を作り上げていくうえで大事なことだと考える。

1学期同様、新型コロナウイルス感染症の影響で、依然として児童生徒にとっても保護者にとっても当然教職員にとっても様々な制約のなかでの学校生活となった。コロナのことを前向きにとらえ、この危機を乗り切っていきたいと考えている。学校関係者評価委員会でも出された意見をもとに、更なる改善の糸口を見つけ出していきたい。

1. 学校経営について

- ・コロナ禍で小中一貫校として、連携した教育活動や学校運営が十分にできないと思うが、互いにその目標や意識の共有をいつも忘れずに、計画・実践・継続してほしい。
- ・小中一貫校として情報交換をするためにも、行事等のお知らせをお互いに配布することも大事なことはないか。
- ・小中一貫校ということが、地域には浸透しきれていない。
- ・各種行事に際して、きちんとした感染防止策のおかげで、安心して参加することができ

た。終息の後は、地域との交流も行っていければと思う。

- ・特色ある学校行事に取り組み、大きな成果があったようだ。「行事の中で子どもは成長する」と言われているので、大変な時期ではあるが、開かれた学校づくりのためにも、伝統的な行事は実施してほしい。
- ・修学旅行が実施でき、保護者は感謝の気持ちを持っている。

2.教育課程・学習指導

- ・コロナの影響で大きく変わった点を問われ、「合唱、水泳、調理実習、行事の精選、共同学習など」が制限されている説明があった。コロナだからできないではなく、やれることを探していくことが大事であるという意見が出た。
- ・コロナの中においても先生方がいろいろな工夫をしながら授業を進めてくださっていることが分かった。「0か100」ではなく、できることをできる方法で探っていくというお話を聞くことができ、とてもありがたいと感じた。
- ・コロナの影響で、学力を心配する声や各家庭での対応に差があり、格差が拡大するのではないかと心配する声があった。また、小1の子供にとっては、プリント学習はハードルが高く、入学して楽しいことを想像してただけに、落胆も大きかったようだ。休校の影響は確かにあるが、どの程度学力に影響しているかというデータはまだない。丁寧な対応を心掛けてほしい。
- ・中学校の先生が、小学校で授業をしてくださり、見たことがあるということだけでも安心感につながり、中1ギャップの解消にもつながるのではないかと。
- ・家庭学習については、児童生徒・保護者ともC評価が高く、気になるところである。先生方の工夫に加え、各家庭での「一声」が大事ではないだろうか。
- ・家庭学習について、内容だけでなく目に見えるもの（何ページしたか）でも評価すると意欲にもつながると思う。
- ・今年度は自粛期間からの年度始まりとなり、先生方との接点が持てなかったため、不安や疑問を抱えてしまう保護者も多くいたのではないと思う。

3. 生徒指導について

- ・小中学校とも児童生徒が楽しく学校生活を送っていること、さらにA評価が増えていることなどから、子ども達が安心して学校生活が送れていることがうかがえる。
- ・知らない人には声をかけないという防犯対策のため進んであいさつができないということもあるのではないかと。あいさつを元気よく返せるのであれば、問題ないと思う。
- ・あいさつについて、様々な取り組みを行い、成果が上がっているようだ。コロナ禍であるからこそ、みんなで明るく元気に笑顔であいさつしてほしい。いつまでも八田小中学校が、活気ある明るい学校であることを願っている。
- ・言葉づかいがよくないという記述があり気になる。そういう年齢なのかもしれないが、きちんとした使い分けができるように家庭でも気をつけていきたい。
- ・生徒総会での「いじめ0宣言」や児童生徒にあったコミュニケーションを心掛けるなどの取組を今後も継続してほしい。そうしたことが中1ギャップの解消につながる。不登校0になることを望む。

- ・「先生に相談できますか」の肯定的評価が70%台であるので、今後とも工夫しながら、児童生徒との距離を縮めるように、さらなる改善につなげてほしい。

4. 成果と課題（今後取り組むべき点、継続するべき点について）

- ・教職員のライフワークバランスが気になるので、今後A評価が向上することを望む。
- ・今後の予定で、特に卒業式・入学式を工夫しながらしっかり実施してほしい。今まで同様0%か100%の対応ではなく、あらゆる可能性を探してほしい。例えば、参加者が制限されることが予想されるので、オンライン中継など。
- ・コロナで厳しい中、工夫していただきありがたく思っている。
- ・数字のみにとらわれることなく、児童生徒の姿を見つめ変化を素早くキャッチできるように、日々のコミュニケーションを大事にしてほしい。
- ・マスク着用が常となり、表情が見えにくいことや会話を控えることにより、コミュニケーションという点で今までとは違う難しさがあるように思う。その点を意識した、対応や指導を望む。
- ・前年度後期、前期に比べ、改善されている項目も多くなっているので、よいと思う。
- ・小中一貫に関わる交流が見送られたことは、安全面を考慮すると仕方のないことと思う。
- ・自粛期間を経験し、学校の楽しさや授業の大切さに気付いたようだ。

5. まとめ

コロナの影響で、児童生徒・保護者・当然教職員にとっても様々な制約のなかでの学校生活となっていることは否めないが、だからこそ「見えたもの」がある。何が大事で何が不必要なのかをしっかりと見極める絶好の機会となったととらえたい。授業時数が制限されているからこそ、なお一層一時間一時間を大事にし、児童生徒にとって有意義な学びにしなければならない。また、慣例の中で行われていたかもしれない行事の内容を熟慮し、ねらいに即した精選された行事にすることもできるだろう。

学校関係者評価委員会の中で出された意見をもとに、コロナのことを前向きにとらえ、この危機を乗り越りつつ学校改善に向けて取り組んでいきたいと考える。